



同好会ひろば

第284号
R3. 1. 8
No.4

今年度研究の集大成！小・中学校合同部会研究発表会

小学校部会及び中学校部会では、全中社研名古屋大会を見据え、「多様化する社会の中で自分の考えをもち、他者の考え方を認めることを通じて、共に『よりよい社会』をつくろうと協力することができる子ども」の姿を目指し、「人間の生き方を問い続ける社会科学習」の在り方を追究してきました。1月12日の研究発表会では、今年度研究の成果と課題を発表します。また「全中社研を見据えて」をテーマに協議を行い、今年度の実践を通して身に付いてきた力や、中学校で実践するにあたり小学校で身に付けておいてほしい力など、小学校、中学校の参加者が合同で情報交換・協議をします。これにより、2022 年度に開催される全中社研名古屋大会に向けて小・中の連携及び大会テーマへの理解を深めたいと思います。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、全ての会員の方に参加していただくことはできませんが、「同好会ひろば」や「あゆみ」を通じて、今年度研究の成果と課題を共有していきたいと思ひます。

なお、11月に行われた小学校部会及び中学校部会で検討した主な課題は以下のとおりです。

地理的環境と人々の生活分野 第4学年 単元名「豊かな自然を生かすまち・南知多町」(7時間完了)

「つなぐ段階」において、南知多町のよさをPRするための内容を考えさせたが、南知多町で生活する人々の思いを踏まえて、南知多町の発展について考えることができない児童がいた。

歴史と人々の生活分野 第6学年 単元名「戦国の世から天下統一へ」(6時間完了)

「つなぐ段階」において、今の生活に生かせることを考える際に、織田信長や豊臣秀吉の業績とつなげて考えることができない児童がいた。

現代社会の仕組みや働きと人々の生活分野 第5学年 単元名「情報を生かす産業」(7時間完了)

「つなぐ段階」において、回転寿司店とコンビニが、Society5.0 の世界でどのように発展していくのかを考えさせたが、学習問題を踏まえて考えることができた児童が少なかった。

地理的分野 第2学年 単元名「身近な地域の調査」(7時間完了)

「つなぐ段階」において、よりよい学区にするための地域の強みを生かした提案を考えさせた。その際、「交通」「歴史」「観光・集客施設」以外の視点では、学区にしかない特色を捉えることが難しく、地域の強みを生かしていない抽象的な提案になってしまう生徒が多かった。

歴史的分野 第1学年 単元名「日本の成り立ちと倭の王権」(6時間完了)

よりよい社会と自分との関わりを問い続ける姿を目指したが、熱田の未来と自分を関連付け、先人から習ったことを踏まえ「よりよい社会」をつくる一員として考えることができる生徒が少なかった。

公民的分野 第3学年 単元名「人権と共生社会」(10時間完了)

「多様化する社会」を目指そうと意識し過ぎたことで、緊急性の高さに基づいて制度化する社会の在り方と人権保障を比較した際に考えが葛藤し、結論を絞り込むことができずにいる生徒がいた。

【第284号 紙面】

今年度研究の集大成！小・中学校合同部会研究発表会	(p 1)
訪問インタビュー 小神 一夫先生	(p 2・3)
授業づくり講座について	(p 4)
今後の予定	(p 4)



訪問インタビュー

小神 一夫 先生

昭和55年、葵小学校に着任。以降、大手小、田代小、山田小、東桜小を経て、高木小校長に。その後、教職員課、汐路小校長、白鳥小校長を歴任されました。

現在は、名古屋市教育スポーツ協会にて学校事業部長としてご活躍されています。

名古屋市の社会科教育に大きな成果をもたらした第54回全国小学校社会科研究協議会研究大会名古屋大会。その名古屋大会事務局長、第一会場校（白鳥小学校）校長として、大会成功に向け、ご活躍された小神一夫先生。先生の豊富なお話を伺いました。

名古屋市教育スポーツ協会での仕事について

名古屋市教育スポーツ協会の中で、私が勤める学校事業部とは、学校開放課と野外教育課、学校給食課の3つの課を統括しています。学校開放課では、放課後の豊かな子どもたちの居場所づくりに向けて、トワイライトスクール・ルームの運営を行っています。また、野外教育課では、名古屋市中津川・稲武野外教育センターにおいて野外教育活動が円滑に運営されるよう、参加者のバス輸送及び給食供給事業やキャンプカウンセラー派遣事業、科学教育事業（科学教室）を行っています。そして、学校給食課では、名古屋市の学校給食の円滑な実施に向けて、学校給食用物資の購入・輸送、衛生管理をしたり、給食を通じた食育の推進（給食新聞の年2回発行）を行ったりしています。

トワイライトとの関わり方

子どもたちの豊かな放課後を実現したいという立場から、教育現場の方々に、次の二点をお願いしたいと思います。

一点目は、「学区の人々を大切にしてほしい」ということです。「人との出会いは、自分の財産」と思い、学校で出会った学区の人々を大切にしてほしいと思います。私がトワイライトを訪問して思うことは、地域の方々は、「学区の子どもは、学区で育てる」との信念をもち、誇りと愛情をもって子どもたちに接しているということです。多忙化解消のためか、地域の活動に参加しない教員が多くなったと聞きます。学校と地域との連携を図るためには、地域の人々との出会いが、なにより必要です。このコロナ禍では難しいですが、ポストコロナの時代には、その先頭に立つ社会科教師になってほしいと思います。

二点目は、「トワイライトと学校が連携をしてほしい」ということです。「トワイライトの子どもはどうも落ち着きがない」「決まりを守らない子どもがトワイライトに多い」「トワイライトで起こったことなので、学校では分かりません。トワイライトに電話をしてください。」確かに、放課後事業は、教育委員会が所管し、子ども青少年局が補助執行することとなっています。しかし、保護者の立場から考えると、どちらも名古屋市であり、もっとも相談しやすい学校に相談をするのです。子どもを第一に考え、保護者の思いを受け止めて対応し、トワイライトと連携していく方が、問題は大きくなりず早期解決につながると思うのです。

ぜひ、放課後の子どもたちの様子を見てください。担任の先生が顔を出してくれるだけで、子どもたちはうれしいのです。地域の事業ボランティアの方による講座で作った作品を子どもたちは飛んで見せに來ます。子どもたちの会話から、地域の方々へ感謝を伝えてもらうだけで、みなさん「うれしい」気持ちになるのです。

目指す社会科教師像

全小社名古屋大会を終えたとき、私はみなさんに、目指すべく社会科教師の姿を三つ話しました。

一つ目は、学区の歴史・文化等に詳しい人です。「このことはあの先輩に聞くとよい」「やっぱり社会科の先生だ」と言われる人になってほしいです。

二つ目は、教材研究を楽しむ人になってほしいです。社会科教師は、教材化するとき様々な人と出会います。この体験は、他教科にない楽しさがあります。人に会う前に事前調べを行う、聞き取り内容を精査する等社会人として必要な資質を磨くことにつながります。ぜひ、教材研究をライフワークにしてほしいと思います。

三つ目は、問題解決的な学習の専門家です。子どもたち同士で話し合いの論点が整理され、考えが深まる授業づくりをしてほしいと思います。半袖姿の沖縄の子が沖縄の特産品や米軍基地問題について説明し、冬服を着ている名古屋の子どもたちと話し合う。基地問題という現実を突きつけられた子どもたちが、どんな課題追究をしていくのか、わくわくしませんか？そして、コロナ禍でもあることから、オンラインによる遠隔地と結ぶ取材活動や交流活動が、社会科として展開できると思います。このような時代において、先生方には、ぜひ、各学校で推進役を務めてもらいたいと思います。

子どもたちの笑顔のために

私は、相田みつおさんの言葉が大好きです。その中の一つにこんな言葉があります。

「ある日のつぶやき やれなかったのではないんだな やらなかったんだな」

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策により、「いっしょに」「仲良く」という言葉より、「離れて」「静かに」という言葉掛けが多くなっていると思います。我慢を強いられている子どもたちに少しでも「元気と笑顔」を取り戻してほしい。そのために、自分に何ができるか、と問いかけながら仕事に邁進しています。今年度よりトワイライトの活動環境の改善を目指し、「コロナに負けるな 元気・笑顔 あふれる活動環境づくり」を基本理念として、リフレッシュ計画を推進しています。身体的距離の確保・対面活動の回避をしながら、子どもたちが楽しく活動できるようにと、一人遊びの道具や運動用具、絵本や児童図書等を配布しました。ウイズコロナ時代の対応に、まだまだできることはあると思います。子どもたちの笑顔のために、ともに頑張りましょう。

授業づくり講座について

今年度も、「すぐに使える」「実際の授業をイメージできる」という点に重きを置き、「授業づくり講座」を計画しました。第3回は、1月22日（金）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、開催を見送りました。そのため今回は、第3回の授業づくり講座において、講師の方から説明していただく予定であった社会科の授業づくりについて紹介します。

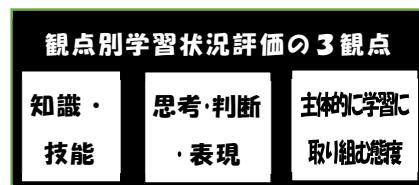
【小学校】講師：鶴舞小学校 余合 弘 先生

☆ 新たな3つの観点による学習評価のポイント

<新たな3つの観点とは？>

右の図のように、評価の観点が変わりました。

3つの観点は、互いに関連し合っていることを踏まえて、学習評価をしていくことが大切です。



<何を知っているか、何ができるか 知識・技能>

“知識”とは、「社会生活についての総合的な理解を図るための知識」のことです。知識については、用語をただ暗記するのではなく、学習したことを通して、人々の社会生活と結び付けて理解することが大切です。

また、“技能”とは、「社会的事象について調べ、まとめる技能」のことです。技能については、「情報を収集する技能（見学や聞き取り調査などで情報を集め……）」「情報を読み取る技能（集めた情報から、地域の広がりや時間の経過、人々のつながりを読み取り……）」「情報をまとめる技能（地図や年表、作品などにまとめる）」に分けられます。

<知っていること、できることをどう使っているか 思考・判断・表現>

“思考”とは、「社会的事象の特色や意味などを多角的に考える力」のことです。そして、“判断”とは、「社会への関わり方を選択・判断する力」のことです。また、“表現”とは、「説明したり、議論したりする力」のことです。これまでの「思考・判断・表現」の観点と言葉は変わっていません。子どもが書いたり、話したりして「表現」したことから、子どもの「思考・判断」を評価することができます。「思考・判断」と「表現」を一体として考えながら評価することが大切です。

<社会を見て考える力を身につけようとしているか 主体的に学習に取り組む態度>

“主体的に学習に取り組む態度”とは、「よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度」のことです。評価するのは個人の性格や行動面の傾向ではありません。子ども自身が自分の学習の様子を知り、「ねばり強く取り組もうとしている姿」と学習の進め方についてあれこれ考えながら「学習を調整しようとする姿」を評価することが求められています。

※ 授業づくり講座の資料は、授業力アップ研修グループのメンバーに発送します。他の会員で資料希望の方は事務局にご連絡ください。

なお、中学校の講座内容は「ひろば285号」にて紹介します。

～今後の予定～

- 1月12日（火） 19:00～ 小・中学校合同部会研究発表会（部会関係者によるオンライン開催）
- 1月22日（金） 19:00～ 第3回授業づくり講座→中止
- 1月29日（金） 19:00～ 第2回ステップアップ全体会（オンライン開催）
- 2月10日（水） 19:00～ 社会科同好会全体会（オンライン開催）